

# 県内の小児科医 情報収集で連携

## メールで「Eメール医局」

県内の小児科医グループがインターネットのメールを活用し、「Eメール医局」を開設している。身近に相談相手がない開業医らが情報交換のために始めた試みで、インターネットや麻疹（はしか）などの感染症情報についてもグループ内でいち早くキャッチし、現場の診療に役立てている。

### はしかやインフルエンザ 感染症をいち早く

このグループは「キンダース」で、金大の若手OBを中心に組織し、金沢や松任、小松などの開業医、勤務医ら約五十人が加入している。

大病院では医師が医局に集まって診療の相談をしたり、学会で学んだ最新の研究について意見を交わしているが、開業医は横の連携を図る場が少なく、入手する情報も限られることから、メールの活用に着目した。

一人が発信すると他の全員のところにもメールが

メールを確認する渡部

院長

金沢市泉本町五丁目

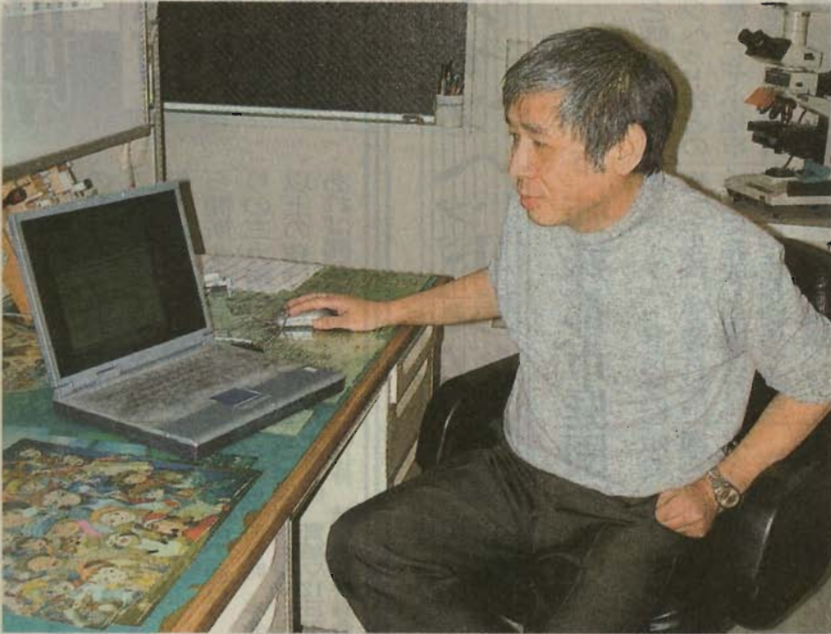
届くソフトを利用しており、グループ内で一日に十通以上をやりとりしている。

メールの内容は、診断、治療にまつわる相談や最新の医療、薬についての情報提供などさまざま

で、最近では、診察したインフルエンザ患者の病状や年齢などを報告するものが多い。

新患数は合わせて約五十人上っており、「例年よりもまだ少ないが、今後、本格的な流行が始まる可能性がある」とグループ内で注意を喚起している。

メンバーの一人であるわたなべ小児科医院（金沢市）の渡部礼二院長は「今後、奥能登にもメンバーの輪を広げて、全県的な情報を得られるようにしていきたい」と話している。



輪島市町野町の曾々木海岸で五日早朝、フグに似た魚「写真」が岩場の水たまりに打ち上げられているのを、サザエ採りに来た同町曾々木、主婦浜高千代



ホテイウオひょっこり 曾々木 海岸

美さん（左）が見つけた。形状はフグにそっくり。

この魚は体長約三十センチ、黒の模様のある黄土色と茶褐色で、顔つきや、ぶよぶよした魚のホテイウオである

のどしま臨海公園水族館の浅井久夫企画展示課長によると、深海